

2017年11月7日

立教大学国際学術研究交流制度  
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	石黒 広昭
受入学部・研究科・研究所		文学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, School of Education and Communication, Jönköping University 協定の有無：無      所在国：スウェーデン
	氏名	Monica Nilsson
招へい期間		2017年10月14日～2017年10月21日（8日間）
研究経費		345,130円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○ついて研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017.10.14	来日
2017.10.15	立教大学教育研究国際セミナー、14号館6階教室（45名）
2017.10.16	立教大学ドラマワークショップ、14号館地下AB教室（16名）
2017.10.19	文学研究科大学院「教育心理学特殊研究」における院生セミナー、5203教室（8名）

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

今回スウェーデン Jönköping University から Monica Nilsson 氏を招聘し、子どもの発達を考える立場から教育思想に関する国際セミナーを開催した。また、同セミナーに向けて教育思想と発達心理学理論を学んで来た院生たちによる大学院ゼミを開催した。同氏はドラマワークショップにも参加したが、他の海外ゲストが中心となって開催されたものなので報告は省略する。

#### 1. 第6回立教教育研究国際セミナー

日時 2017年10月15日(日) 13:00-17:10

場所 立教大学(池袋) 14号館6階セミナー教室

##### スケジュール

13:05 開始 主催者挨拶

13:10 基調講演 1 Monica Nilsson (Jönköping University, 立教大学 2017年度招聘研究員)

演題: Swedish Early Childhood Education and the relationship between play/playworld and Reggio-inspired concept of exploration.

14:10 基調講演 2 Bernt Höglund (舞台演出家)

演題: “Children, Theatre and Art”: a lecture/talk based on non-academic artistic experiences.

15:10 休憩

15:30 「演劇と教育、教育学の立場から」 里見実(國學院大學名誉教授)

16:00 討論

ファシリテーター: 石黒広昭

討論者: Moica Nilson, Bernt Höglund, 里見実

17:00 閉会挨拶

17:10 閉会

「ポストモダンからみたスウェーデンの就学前教育における学習、遊び、アート(“Learning, play and arts of Swedish early childhood education from postmodern perspective”）」と題された国際セミナーでは、同じくスウェーデンから来日中の舞台演出家の Bernt Höglund 氏と里見実氏(國學院大學文学部名誉教授)も参加し、幼児期の教育をめぐって、スウェーデンと日本を比較しながら、遊び、演劇、幼児教育のあり方などが議論された。

この会は、幼児期から児童期における学びの新しい姿を模索するために開かれた。遊びを幼児期の活動として重視しているとされるスウェーデンにおいてさえ、近年は教科教育主導型の学習を就学前期に前倒しすることが積極的に叫ばれている。その中で、子どもの発達にとって大切な遊びは「つまらない」学習に対する飴のように用いるカリキュラムの必要性が謳われる状況にある。本来遊びと学びは同じものであり、よく遊べる子どもたちこそが世界を学び、世界を創り上げる主体として育つものである。Monica Nilsson 氏は、こうした動向

に対して異議をとらえている。同氏は大学で保育者養成をしながら、保育 (Educare) 実践者とともに子どもたちの新しい学びのあり方を模索している。保育者経験があり、スウェーデンの就学前教育と共に歩んできた研究者である同氏は現在の幼児教育の「学校化」に強い危惧を抱いており、こうした動向は日本の幼児教育、児童教育における学びのあり方を考える上でも大変参考になる。今回の国際セミナーで同氏はスウェーデンの幼児教育の概要とその思想的背景、最近の動向を踏まえた上で、自身の研究を紹介し、遊びと探索を中心とした幼児期の活動の重要性を指摘した。フロアには幼児教育研究者、教育学者、スウェーデンの福祉社会に関心を持つ社会学者、経済学者、演劇学関係者など多彩な人々が集い、重要かつ刺激的な議論がなされた。

Bernt Höglund 氏はスウェーデンの主に子どものための劇の制作者であり、演出家である。日本でも演出をしており、名古屋の子ども劇団「うりんこ」の作品「眠るまち」は2012年度児童福祉文化賞を受賞した。彼はフリーランスの演出家で、自由な発想にもとづいて世界で活躍している。アフリカやアジアの各地で地元の人々と劇を創り上げる中でより柔軟な発想を強めている。芸術に基づく教育(Arts-based pedagogy)で強調されることは、遊びと学習の関係と同じく、アート活動をオブジェクトのように使うのではなく、既存の観念を破壊し、組み替え、再構築する批判的なまなざしを向け、実践することである。里見実氏は学校のあり方を問い続けてきた教育学者である。フレイレ、フレネなど、日本の教育状況、子どもたちの発達環境を相対化する資源として異質なまなざしを日本で紹介してきた。その中にはアウグスト・ボアールの「被抑圧者の演劇」も含まれる。さらに、第二部では石黒がファシリテーターとなって、就学前教育における学習、遊び、アートについて全員で議論を深め、子どもたちの発達環境を問い直す良い機会となった。なお、本セミナーには司会として内田祥子氏(高崎健康福祉大学)、通訳として川島裕子氏(北海道教育大学旭川校)、井上知香氏(常葉大学短期大学部)も参加しており、貴重な議論の場を作り上げてくれた。Nilsson 氏以外に関わる諸費用は、基盤研究(B)「言語的文化的に多様な子どもたちのパフォーマンスアートに媒介された学習活動の研究」(研究代表:石黒広昭)より支出され、立教大学文学部教育学科より後援を受けた。

当日の配布資料を含む詳細情報 <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/pod/sympo2017oct.html> に掲示されている。

## 2. 院生セミナー

日時: 10月19日(木) 5校時

場所: 5203教室

参加者: 教育心理学特殊講義参加者及び本セミナー特別参加院生

概要: 院生が予め事前学習し、用意された疑問に対して Nilsson 氏が資料を交えて回答し、議論を重ねていった。院生らには海外の研究者と直接議論する良い機会となった。

以上